



答 辞

吹く風にも春の爽やかさが感じられ、うらかな春の日差しが心地よい季節となりました。本日は私たち卒業生のために、このような素晴らしい式典を挙げていただき、誠にありがとうございます。船田理事長並びに渡邊学長、ご来賓の皆様、在学生から温かいご祝辞を頂きましたこと、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

思い起こせば四年前、真新しいスーツに身を包み、大学生活への期待と不安で緊張しながら臨んだ入学式のことを今でも鮮明に覚えています。大学生活は高校までの生活とは一変しました。入学当初は、今までとは全く異なる学生生活に戸惑う事もありましたが、先生方や友人の助けを借りて少しずつ馴染むことができました。また大学には、毎日の講義以外にもサークル活動や部活動、ボランティア、資格取得講座など、様々な学びの場も充実していました。それからの四年間は瞬く間に過ぎてしまったような気がします。

本学で過ごしたこの四年間は、友人たちと共に勉強に励み、時には模擬授業をして、意見を交換し合い、有意義な時間を過ごすことが出来ました。特に印象に残っているのは、ボランティア活動や教育実習で実際に児童や生徒たちと遊んだり、授業をしたりしたこと。大学での模擬授業とは全く異なり、実際に児童生徒相手に授業をすることの難しさを感じました。自分が思い描いているような授業が出来ず、落ち込むこともありましたが、そんな中で、話を聞き、応援してくれた友人に助けられ、最後までやり遂げることが出来ました。私はこのような経験から、妥協せずに満足いくまで試行錯誤をすることや友人と支え合うことの大切さを学びました。

一方で、新型コロナウイルスの影響が未だに収まらず、以前のような生活は戻って来ていません。また、世界では戦争が起き、胸が痛むようなニュースが毎日流れています。一日も早く平和な日々が訪れること、そしてかけがえのない日常が戻ってくることを心より願っています。私がこのような時代に強く感じるのは、お互いに声を掛け合うことの大切さです。些細なことでも声をかけられることで、自分一人ではないと思うことができ、頑張ることが出来ると思います。これまで多くの方々に助けられ、今日この日を迎えることが出来ました。私の成長を支えてくれた方々に感謝し、そして私自身も次の世代へ貢献できるよう誠心誠意これからの人生を歩んでまいります。

私たちは本日卒業という区切りを迎えると同時に、新たな道のスタート地点に立ちました。大学生活で得た知識や経験、友人との出会いはこれからの将来の糧になると信じています。この先一人一人の進む道は違いますが、本学で培った経験と知識を胸に、日々精進していきたいと考えております。

最期になりますが、今日まで未熟な私たちをご指導してくださいました諸先生方、学生生活の支援に尽力してくださいました職員の方々、大変お忙しい中ご臨席賜りましたご来賓の皆様に改めて御礼を申し上げますとともに、今日まで成長を見守り続けてくれた家族に感謝致します。そして、作新学院大学の今後の益々の発展を祈念致しまして、卒業生代表の答辞とさせていただきます。

令和五年三月十九日
作新学院大学 人間文化学部
第三十期卒業生代表 曲山 菜々美